

第3回 分離派 100 年研究会

2013 年 6 月 1 日（土） 13:30—17:00

東京大学 本郷キャンパス 工学部 1 号館 3 階 建築学専攻会議室

分離派からインターナショナル・スタイルへ — 山田守の戦前の建築作品を通して —

岩岡竜夫（東京理科大学 教授）

大宮司勝弘（東京家政学院大学 助教）

分離派建築会の中心メンバーだった山田守は、東京帝国大学を卒業後、直ぐに逓信省の営繕技師としてキャリアを積んでいくが、同時に分離派建築会作品展に 1928 年まで参加している。東京中央電信局（1925）や聖橋（1927）は、分離派として山田守の（あるいは分離派の）集大成ともいべき建築であった。1928 年に設計した千住郵便局を最後に、山田は約 10 ヶ月間の欧米視察へと旅立つ。帰国後、1930 年に竣工した電気試験所大阪出張所（1930）の写真は、リチャード・ノイトラの仲介によって、1932 年に MoMA で開催された「インターナショナル・スタイル」展のカタログに掲載されることになる。

分離派建築会結成の背景

角田真弓（東京大学 技術専門職員）

大正 9 年堀口捨己、山田守、石本喜久治ら東京帝国大学工科大学建築学科の同級生により分離派建築会は結成された。この一部の学生による自主展覧会は単なる学生活動に留まらず、後の建築界に影響を与える動きとなり、現在では日本における最初期の近代建築運動と位置づけられている。堀口らは学生時代に何を学び、何をきっかけとして分離派建築会を結成したのであろうか。学生時代に焦点を当て、当時の建築教育カリキュラム、交友関係、卒業論文、卒業論文などから分離派建築会結成の背景を再考したい。

○ 入場無料

○ 定員 20 名（参加ご希望の方は、下記までご連絡ください）

法澤（京都大学田路研究室）ta-hosawa@archi.kyoto-u.ac.jp

○ 研究会後、懇親会を予定しています。